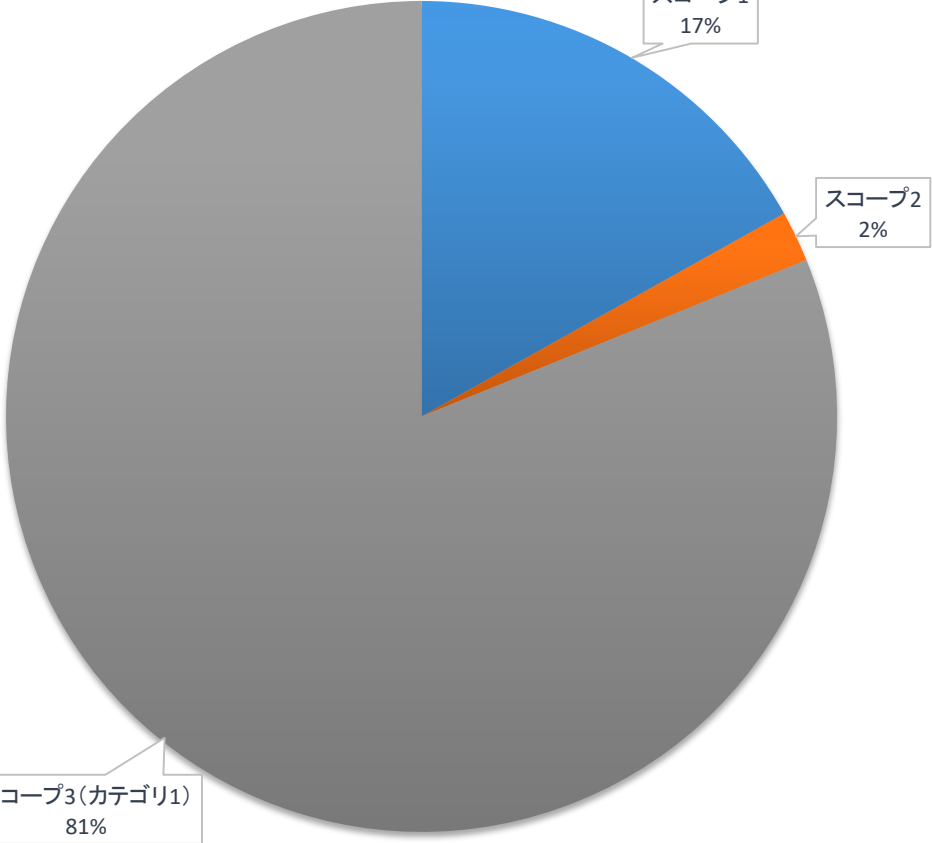


石井造園株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：造園業（造園 土木請負）● 事業概要：経営理念にある幸せを共有する企業を目指すため、生業の全てにおいて地域志向CSR方針を打ちたて事業を展開している● 事業規模：資本金40百万円、売上250百万円（2018年度） 従業員12名
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>2030年までに2018年比CO2排出量を50.4%削減する 電力の再エネ化、車両のEV化、バイオマス燃料の活用等を推進する</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>Scope3カテゴリ1：2030年に2018年比で50%削減を目標と 2050年に100%削減を目指す （サプライヤーとの連携により、協力各社の再エネ電力の使用推進、 リサイクルの推進等に取り組む。）</p>

石井造園株式会社

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況  <p>A pie chart illustrating the distribution of greenhouse gas (GHG) emissions across three scopes. The largest portion is Scope 3 (Category 1) at 81%, represented by a grey slice. Scope 1 accounts for 17% (blue slice), and Scope 2 accounts for 2% (orange slice). Callout boxes with leader lines point to each slice, providing the percentage values.</p> <table border="1"><thead><tr><th>スコープ</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>スコープ1</td><td>17%</td></tr><tr><td>スコープ2</td><td>2%</td></tr><tr><td>スコープ3(カテゴリ1)</td><td>81%</td></tr></tbody></table>	スコープ	割合	スコープ1	17%	スコープ2	2%	スコープ3(カテゴリ1)	81%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 55.7[tCO2]
		スコープ	割合							
		スコープ1	17%							
スコープ2	2%									
スコープ3(カテゴリ1)	81%									
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 6.5[tCO2]										
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : 267.9[tCO2] 目標の対象セクター : カテゴリ1 購入した製品・サービス										

石井造園株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが公共工事受注に影響することも懸念される● 自社やサプライヤーの省エネ活動の促進や、安価な再エネの導入によって、エネルギーコストの削減が実現できれば、生産や調達のコストの削減につながる可能性がある● 率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定を計画し、SBT水準の目標設定により認定を受けることを目指している● SBT取得により、顧客の削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待している● 弊社規模でもこうした取り組みができることを業界内に認知してもらうことで業界全体の底上げの機会になると考える

石井造園株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 中小企業で人数に限りがあり、社長以下メンバー2名で検討チームを形成し、本事業を通じてSBT目標を検討。チームにおいては、各部門別に温暖化のリスクと機会を検討したことで、全社目標の必要性を共有できた● 目標の実現可能性について社内で意見があったが、大企業ではない弊社ほどの中小企業の規模でも社会的要請に応じてバックキャストで目標を設定する必要性を説明し、理解を得た
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1 の削減において、バイオマス資源の活用が必要であるが、バイオマスの持続的な供給について検討していくことが必要● Scope3のカテゴリ1の削減目標の達成のために、サプライヤーとの協働と進捗を管理するためのデータの収集が課題